

- 連続講演会「発達障害のある学生への支援」特集
- 第 29 回 K² 茶論 開催報告
- 大学生はなぜ勉強しないのか？
- 平成 24 年度前期 遠隔授業受講状況について
- 賛助会員募集のお知らせ
- 活動予定・報告
- 編集後記

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」は Shinshu・Self-Study・Share・Scale・Social を表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

高等教育コンソーシアム信州事務局
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学学務課内
電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044
URL：http://www.c-snet.jp/ MAIL：office@c-snet.jp

連続講演会「発達障害のある学生への支援」特集

発達障害のある学生が学びやすい環境のために

平成 24 年度の高等教育コンソーシアム信州では、教育現場や社会において関心を集めている「発達障害のある学生への支援」をテーマに取り上げ、全 4 回の連続講演会を開催します。開催にあたり、講師の高橋知音先生（信州大学教育学部・教授）に、今回の企画の趣旨と概要についてお聞きしました。

発達障害のある人は能力の偏りが大きく、できることとできないことの差が目立ちます。専門的なことをよく知っているのに簡単な指示が通らなかったり、理解力は高いのに文書を読むのがとても遅かったり、その特徴はさまざまです。能力が低いわけではないので、ちょっとした配慮をしてもらえただけで、すばらしい成果を発揮できることもあります。

発達障害のある学生への対応を考えると、「どんな訓練をしたらできるようになるか」といった発想ではなく、「周囲がどのような配慮をしたら力が発揮できるのか」という発想が必要です。不公平になるのではないかと、特別扱いになるのではないかと懸念もあるかもしれませんが、こうした配慮を行うことは「学ぶ権利の保障」であり、教育機関としての責務です。

では、具体的にどうしたらよいのでしょうか。その問いに答えるために、今回、連続講演会を企画しました。6 月には、実際に発達障害の診断のある学生はどんなことで困っているのか、どのような支援があればうまくいくのかについて、当事者のお話をうかがいます。ゲスト講師としてお招きする笹森理絵さんは、苦労しながら大学を卒業後、いろいろうまくいかないことがあり医療機関を受診して診断も受けましたが、結婚、子育てをしながら再

プロフィール

高橋知音（たかはし とかね）

信州大学 教育学部 教授

専門分野：教育心理学、臨床心理学

学歴：1992 年 筑波大学大学院教育研究科修了。

1999 年 University of Georgia,

Graduate School of Education 修了 (Ph.D.)

著書・翻訳書：

『発達障害のある大学生の
キャンパスライフサポートブック』（単著、学研）

『障害学生修学支援ガイド』
(分担執筆、日本学生支援機構)

『ADHD コーチング—大学生活を成功に導く
支援技法—』（共同監訳、明石書店）

『大学・高校の LD・AD/HD・高機能自閉症の
支援のためのヒント集—あなたが明日からできること』
(分担執筆、黎明書房)



度大学に入学、この春に卒業し、障害のある方の就労支援のお仕事に就かれました。NHK の番組等にも多数出演され、ご自身の体験を著書にまとめられています。

発達障害のある学生への支援は、その学生を理解することから始まります。笹森さんのお話から、支援のあり方について多くのヒントが得られると思います。そして、第 3 回、第 4 回の講演で大学として何ができるか、さらに具体的に考えていきましょう。

連続講演会 第1回「発達障害のある学生のための学習支援」5月16日(水)開催報告

第1回講演会は、メイン会場の信州大学教育学部から、遠隔講義システムを用いて県内6大学9会場にリアルタイム配信されました。加盟大学の教職員に限らず、県内の教育関係者や一般市民など、約30名の外部聴講者を含む105名の聴講者があり、発達障害への関心の高さがうかがえました。

高橋先生のご講演は、アニメーションやイラストを使いながら、発達障害のある学生の感覚を聴講者が体験できるよう工夫されていました。そして聴講者にとって、発達障害のある学生に対して「何かをやってあげるのではなく、成長につながるような支援をするには何が必要か」を考え

るよい機会となりました。また、ご講演後の質疑応答では、発達障害のある学生から「周りの人々からの学習サポートには感謝しているが、卒業後の就職などを含めて将来が不安」という訴えがあり、聴講者たちはその声を熱心に聞いていました。

当日の様子は本コンソーシアム Web サイトにて配信中です。(http://www.c-snet.jp/) あわせて、2009年に開催された第7回K³茶論「発達障害のある学生の支援—潜在的な力を引き出すために—」の高橋先生の講演動画も配信中ですのでぜひご覧ください。



信州大学教育学部キャンパス会場の様子



信州大学松本キャンパス会場の様子

連続講演会「発達障害のある学生への支援」今後の開催予告

第2回「発達障害のある大学生の立場から」

6月22日(金) 16時20分～17時50分 メイン会場の信州大学教育学部から県内各大学に向けて配信
詳しくは本コンソーシアムWebサイトで



第2回講演会は、笹森理絵さんを講師にお迎えし、ご自身が発達障害の診断を受けられた後、再び大学生活を送られた貴重な体験をお聞きします。ぜひご参加ください。

プロフィール

特定非営利活動法人クロスジョブ神戸
就労移行支援事業所「クロスジョブKOBE」就労支援員/精神保健福祉士
著書「ADHD・アスペ系ママ へんちゃんのポジティブライフ」(明石書店)

◀ 笹森 理絵氏

第3回講演会「卒業後に向けた支援—就職支援、進路支援」

講師 高橋 知音(信州大学教育学部教授) (※日時未定)

発達障害のある学生の「卒業後」について考えます。進学や転学部などをどう考えるか、就職に向けての支援、利用可能な専門機関や制度を紹介します。

第4回講演会「大学として何ができるか、どこまでやるべきか」

講師 高橋 知音(信州大学教育学部教授) (※日時未定)

発達障害のある学生の学生生活を支えるために、大学として何ができるかを考えます。支援者としては、どこまでやるべきかと悩むこともあります。発達障害のある学生が増えていく時代の中、支援のあり方について考えていきたいと思えます。

第29回K³茶論

「子どもリフレッシュ&学習支援ボランティア報告、夢チャレンジャー報告」開催報告

4月18日(水)に開催された「第29回K³茶論」は、清泉女学院大学と長野大学から県内大学へ向けて遠隔配信され、県内大学の学生や教職員など53名の参加者がありました。

清泉女学院大学の学生たちは、東日本大震災ボランティア活動を通じて交流が始まった岩手県大槌町吉里吉里(きりきり)中学校の生徒たち計32名を清泉女学院大学に招待し、一緒にスキーをしたり、英語を教えたりした体験を報告しました。また、長野大学からは、「夢チャレンジ制度」のチャレンジャー認定を受けた5組のグループが、それぞれのプロジェクトの成果と今後の課題を発表しました。

これらの発表に対して、他大学の学生たちの活動を知る良い機会になったという感想や、より活発な学生間の交流機会を求める声がありました。当日の様子は公式Webサイトからぜひご覧ください。



長野大学4年生 高野光輝さん



清泉女学院大学4年生
鳥居 愛美さん、牛澤 美穂さん、桑原 裕美さん

大学生はなぜ勉強しないのか？



高等教育コンソーシアム信州
教育部会長 加藤 鉦三
(信州大学高等教育研究センター教授)

中教審大学教育部会の審議まとめ『予測困難な時代に〜』が3月26日に公開され、「勉強しない大学生」「勉強させる取り組みに補助金を」という趣旨のヘッドラインで報道されました。大学生が勉強しない、ということは、大学ごとまた個人ごとに程度の差こそあれ、概ね正しくかつ歓迎すべき問題意識であると思われれます。もし大学生が勉強していない、しているにしても、例えば米国の大学生に比べて勉強量が少ない、としたら、それは改善を迫られる問題でしょう。

冒頭の「審議まとめ」は、この問題の解決策として、「質を伴った学修時間の実質的な増加・確保を始点とした好循環」を作り出す必要があるとしています(p.11)。その好循環は、学習時間の増加・確保が、①教育課程の体系化、②組織的な教育の実施、③授業計画(シラバス)の充実、④教員の教育力の向上を含む諸課題を進めるための全学的な教学マネジメントの改善、といった施策と連なってなされる必要がある、としています(同所)。①~④は、確かに必要です。しかし私には、これらが「大学生に勉強させる」ための直接的な手段として有効であるとはどうしても思えません。

「審議まとめ」に対して持つ私の強い違和感は、それが「大学生が勉強しないのはなぜだ?」という分析をしていないところに起因しています。理由が分からないところでは有効な解決はあり得ません。

私が考える理由は次のものです。「米国の大学生は宿題が大変で、それをやっていかないと落とされる。だから勉強する。一方、日本では宿題が少なく、例えやっていなくても落とされるとは限らない。だから勉強しない。」もしこれが正しい理由であるならば、直接的な解決策は、(i)宿題をたくさん出し、(ii)やってこなければ落とす、というものであるように思われます。皆さんはどうお考えになるでしょうか?



平成24年度前期 遠隔授業受講状況について

前期遠隔授業は15科目が開講され、県内8大学の学生864名（うち単位互換受講者69名）が受講しています。遠隔授業では、高等教育コンソーシアム信州の遠隔講義システムを利用して、自大学にいながら県内の他大学の授業を履修することができます。遠隔授業を受講して修得した単位は、長野県内大学単位互換協定に基づき、所属大学の単位として認定されます。

■平成24年度前期 遠隔授業受講状況一覧表

(単位：人)

月	授業科目名	担当教員	受講登録者		聴講	合計
			全体	うち単位互換受講者※		
月1	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語 Part1/2)	田村亮子(清泉女学院大学)	69	7	10	79
月2	検索の科学	鈴木治郎(信州大学)	54	0	1	55
月3	国際看護学	宮越幸代(長野県看護大学)	30	19	1	31
月5	ドイツ語初級(総合)Ⅰ	松岡幸司(信州大学)	48	11	0	48
火1金3	中国語Ⅰ	ピラール・イリヤス(長野大学)	21	1	1	22
火2	看護研究方法	七田恵子(佐久大学)	81	2	1	82
火3	現代スポーツ論	等々力賢治(松本大学)	119	6	0	119
火5	キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-	赤羽貞幸・霜鳥光(信州大学)	56	1	1	57
水3	生態学	高橋大輔(長野大学)	141	5	1	142
水5	ドイツ語中級(読解)Ⅰ	松岡幸司(信州大学)	9	1	1	10
木1	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語 Part2/2)	田村亮子(清泉女学院大学)	69	7	10	79
木5	物理学の世界	矢部正之(信州大学)	56	3	0	56
金2	観光英語(English for International Exchange)	グレゴリー・パーチ(清泉女学院大学)	22	4	6	28
金4	キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-	赤羽貞幸・霜鳥光(信州大学)	70	0	0	70
金5	日本人のための日本語練習ゼミ	加藤鉦三(信州大学)	19	2	1	20
計			864	69	34	898

※「単位互換受講者」は「受講登録者全体」の内数。

賛助会員募集のお知らせ

県内高等教育と地域の発展を目指す高等教育コンソーシアム信州を、サポートして下さる会員を募集しています。詳しくは高等教育コンソーシアム信州事務局までお問い合わせください。

■年会費 特別会員(長野県内地方公共団体)、賛助会員(団体・個人)とも、1口1万円、1口以上

■会員特典

- ①高等教育コンソーシアム信州公式Webサイトに、会員として社名(団体名・個人名)を掲載させていただきます(リンクを貼ることも可能です)。
- ②高等教育コンソーシアム信州のパンフレットに、会員として社名(団体名・個人名)を掲載させていただきます(ただしパンフレットは年1回発行のため、年度途中で会員になった際は掲載できないことがあります)。
- ③高等教育コンソーシアム信州が主催するフォーラムや講演会の案内をお送りいたします。
- ④「S-NET NEWSLETTER」など高等教育コンソーシアム信州の刊行物をお送りいたします。
- ⑤会員団体の企画を高等教育コンソーシアム信州が後援いたします(書類提出等、手続きがあります)。



活動報告・予定

高等教育コンソーシアム信州の最近の主な活動は、次の通りです。

- 4月18日(水) 第29回K³茶論「子どもリフレッシュ&学習支援ボランティア報告、夢チャレンジャー報告」
- 5月16日(水) 連続講演会「発達障害のある学生への支援」第1回-発達障害のある学生のための学習支援-
- 6月22日(金) 連続講演会「発達障害のある学生への支援」第2回-発達障害のある大学生の立場から-
(※第3回、第4回の開催日時は未定。決まり次第、Webサイト等でお知らせいたします。)
- 8月31日(金)・9月1日(土) ピア・メンター育成キャンプ

編集後記

高等教育コンソーシアム信州が発足して5年。この4月は事務局スタッフの大幅な交代があり、さらに6月には、事業立ち上げ時から今日まで関わってきた唯一のスタッフが異動になります。Mさん、長い間お疲れさまでした。今後ますますのご活躍をお祈りしています。

